

東京湾海況情報 22-01

東京湾水質調査結果（平成22年4月分）

平成22年4月15日発行

千葉県水産総合研究センター

東京湾漁業研究所

〒293-0042 富津市小久保3091

TEL 0439-65-3071

E-mail futtsu-gk@mz.pref.chiba.lg.jp

千葉県農林水産技術会議

資料：東京湾水質調査(内湾：4/7(わかふさ)、内房：4/8(ふさみ丸)
千葉県環境研究センター、(独)国立環境研究所
関東・東海海況速報、東京湾口海況図

水温・塩分の状況(図1～2、表1)

表層水温は、内湾で12～13℃台と平年より1～2℃低目、内房で13～16℃台とほぼ平年並みでした。表層塩分は、内湾で28～31台と平年並みからやや低目、内房で32～34台と平年並みでした。内湾の鉛直分布から、水温は一樣ですが、塩分、密度からは成層化の兆しが見られました。

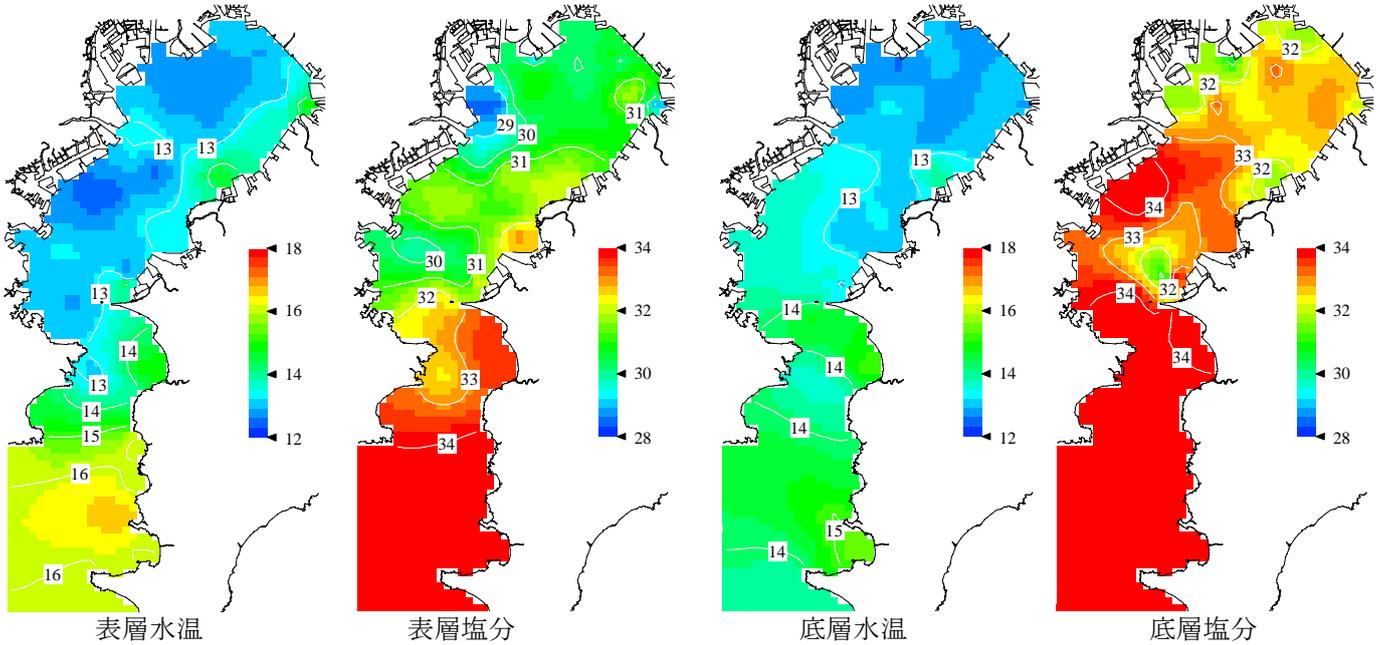


図1 水温と塩分の水平分布

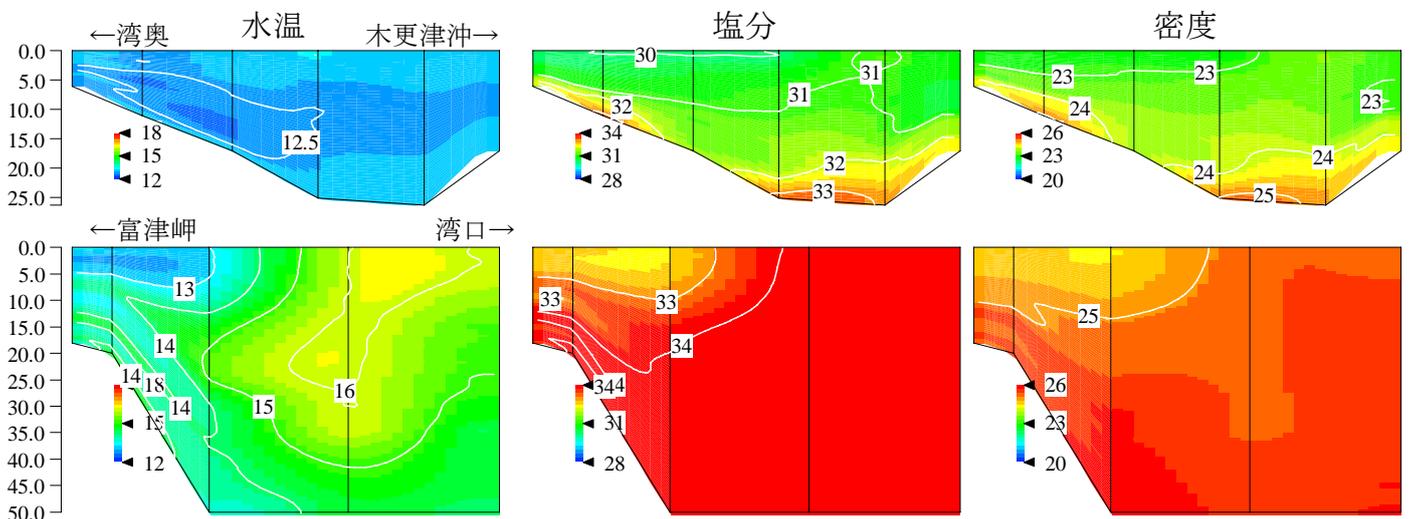


図2 鉛直分布(上:内湾, 下:内房)

赤潮の状況(図3、表1)

内湾域では、ほぼ全域で赤潮状態でした。特に北東部海域では、透明度2m前後、pH8.5以上でした。

プランクトンは全体に多く、優占種は、珪藻のレプトキリンドロス(*Leptocylindrus danicus*)で、その他にスケルトネマ(*Skeletonema costatum*)が見られました。

湾奥部では、ノクチルカ(*Noctiluca miliaris*:夜光虫)が多く見られました。



図3 透明度の分布(m)

貧酸素水塊の状況(図4、表1)

貧酸素水塊は、依然として全域で観測されませんでした。

(千葉県水産総合研究センターでは、溶存酸素量2.5ml/L(酸素飽和度50%)以下を貧酸素水塊としています)

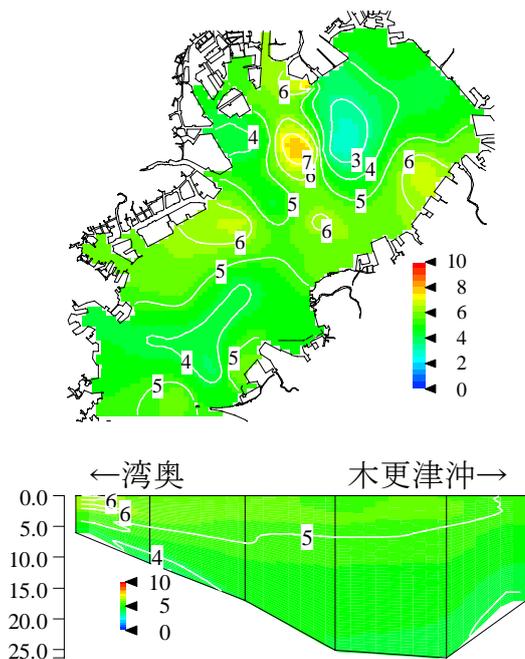


図4 内湾のDO(ml/L)

栄養塩類の状況(図5、表1)

DINは、内湾で200~600 $\mu\text{g/L}$ 台とほぼ平年並み、内房は80~200 $\mu\text{g/L}$ 台とやや高目でした。

PO4-Pは、全域で3~15 $\mu\text{g/L}$ でした。内湾では、5 $\mu\text{g/L}$ を下回る海域が広がっていました。内房では、ほぼ平年より高めでした。

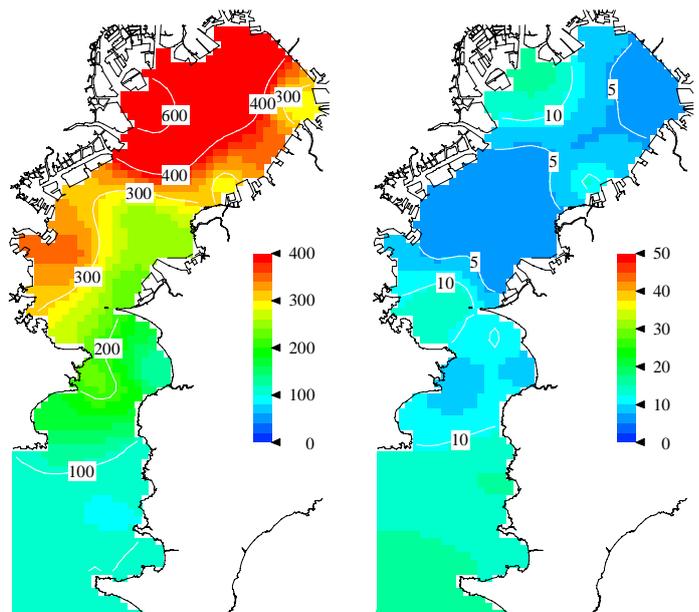


図5 表層の栄養塩類
(左:DIN, 右:PO4-P 単位はいずれも $\mu\text{g/L}$)

黒潮の状況(図6)

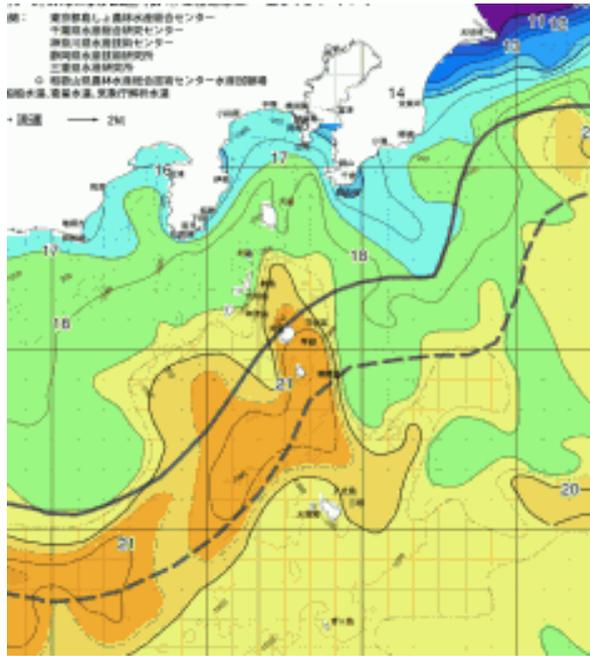
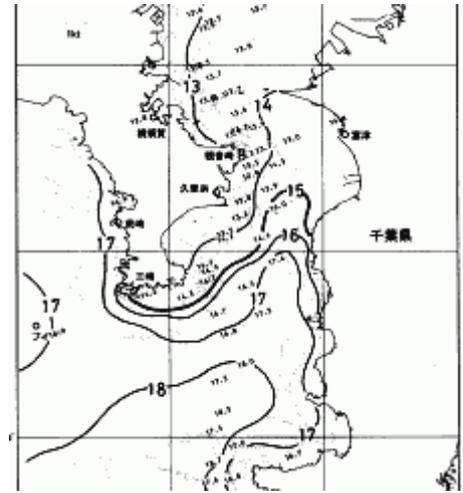


図6 黒潮の動き(4月7日)

黒潮は、N型流路をとり三宅島付近を東進し、房総沖で北東方向に向かい太東沖を東に流れています。湾口海況図から、千葉県沿岸沿いを東進する沖合水が観察されていますので、急潮等への注意が必要です。



東京湾口海況図(4月7日)

表1 主な調査点の水質調査結果

調査年月日:平成22年4月7日(内湾), 8日(内房)

調査点	透明度	水温	塩分	pH	底層のDO (ml/L)	溶存無機 態窒素 (μg/L)	リン酸 態リン (μg/L)	アンモニア 態窒素 (μg/L)	クロロフィル a量 (μg/L)
内湾	船橋	2.0 (2.0)	12.9 (15.2)	30.17 (30.11)	8.4 (8.6)	4.6 (6.2)	460 (422)	6 (19)	32 (67)
	st.15	2.0 (2.5)	12.5 (15.1)	29.97 (29.97)	8.3 (8.6)	3.6 (4.9)	488 (374)	6 (9)	41 (45)
	st.3	2.0 (2.6)	12.8 (14.9)	29.97 (30.19)	8.4 (8.6)	4.2 (3.9)	483 (405)	9 (6)	25 (44)
	st.6	2.1 (3.2)	13.0 (14.4)	29.97 (30.11)	8.4 (8.5)	4.2 (4.0)	515 (463)	4 (9)	24 (60)
	st.9	2.4 (4.0)	12.8 (14.3)	30.76 (31.27)	8.4 (8.4)	3.9 (4.9)	259 (357)	5 (11)	21 (80)
	盤洲Cブイ	2.2 (3.3)	14.5 (14.6)	31.97 (31.37)	8.3 (8.4)	5.6 (4.8)	281 (309)	11 (8)	24 (48)
	st.8 (盤洲Aブイ)	2.5 (3.8)	13.0 (14.2)	31.15 (31.74)	8.4 (8.4)	4.5 (4.5)	252 (277)	3 (10)	19 (41)
	富津ベタ	2.8 (3.8)	13.2 (14.1)	30.56 (31.94)	8.2 (8.3)	4.2 (5.1)	220 (276)	4 (8)	19 (46)
内房海域	第2海ほ下	(5.5)	12.9 (14.1)	32.6 (32.90)	8.2 (8.2)	230 (212)	10 (8)	29 (33)	分析中
	st.31	3.0 (6.0)	12.9 (14.1)	32.4 (33.16)	8.1 (8.3)	218 (204)	6 (7)	14 (25)	
	st.23	16.0 (11.8)	16.1 (15.7)	34.4 (34.25)	8.1 (8.2)	90 (54)	13 (6)	9 (17)	
	st.1	18.0 (13.1)	16.0 (15.9)	34.4 (34.43)	8.1 (8.1)	101 (62)	14 (8)	9 (14)	
	st.10 (下洲沖)	5.5 (7.2)	13.9 (14.4)	33.5 (33.25)	8.2 (8.2)	156 (167)	10 (7)	13 (25)	
	st.12 (湊沖)	5.0 (6.0)	14.6 (14.6)	33.6 (33.40)	8.1 (8.3)	115 (116)	7 (4)	9 (21)	
	st.22 (保田沖)	17.0 (9.4)	16.1 (15.6)	34.4 (34.20)	8.1 (8.2)	88 (72)	12 (4)	9 (20)	
	st.24 (富山沖)	15.0 (12.6)	15.8 (15.8)	34.4 (34.40)	8.1 (8.2)	99 (53)	14 (7)	8 (18)	
	st.26 (館山湾内)	15.0 (12.6)	16.0 (16.1)	34.5 (34.47)	8.1 (8.2)	105 (50)	13 (6)	11 (17)	

():過去10年間の平均値

※透明度, pHとクロロフィルa量の橙色は赤潮, DOの青色は貧酸素水の基準に達していることを示しています。